

1. 単元名 「めざせ!元気いっぱいA地域っ子」～人とつながりながら、健康な生活をめざす活動～

2. こんな子どもだから

- 本学年の子どもたちは、1学期、花植え活動を行っている地域の人とともに活動し、その願いに共感することができた。その経験から、地域で活動する人に興味関心をもち、人とかかわりながらさらに学習を進めたいと意欲をもっている。また、自らの健康に関しては、15%の子どもが「すぐに疲れる」「やる気が出ない」などの心身の不調を感じており、「元気」だと認識している子どもも粘り強さが不足するなど課題を抱えている。 **【主体的・創造的な態度】**
- 子どもたちは、これまでの学習で、教師の支援のもと、自分の課題に沿ってインタビューや活動を行い、伝えたいことを決めて表現したり、考えを比べながら交流したりしてきた。しかし、多数の事実の中から必要なものを選び結論に結び付けたり、伝えたいことがより伝わるような表現方法を選んだり、互いの考えについて理解を深めるような活発な対話のある交流を行ったりすることについては、十分ではない。 **【問題解決にあたっての学び方】**
- 子どもたちは、A地域をよりよくしようと願いをもって活動をしている地域の人が存在することには気付いている。しかし、その願いに共感し、地域の一員としての自覚をもって進んで行動に移すまでには至っていない。 **【自己の生き方への自覚】**

3. こんな教材で

- ① **本質性**  
「元気」を広める活動は、活動の楽しさを通じて体と心を元気にするとともに、人と人とを結び付け、笑顔いっぱいの明るい町づくりにも貢献していることを、地域の人と触れ合うことで実感できると考える。
- ② **課題性**  
地域の人との協同的な活動の中で、簡単には自分の理想とする「元気」を手に入れられないことに気付き、継続した努力や苦労の後の有能感が得られると考える。
- ③ **発展性**  
地域の人との協同的な活動を通して、地域の人の願いを「受け」、その「受けた」ことを大切にして元気を広める活動を行うことで、地域に「返す」ことができた有用感をもつことができるであろう。その経験が、これからも進んで地域とかかわろうとする行動につながる点からも、価値のある教材であると考えられる。

4. こんな支援で

- 【対話が成立する単元構成の工夫】**
  - 自分の健康についてなりたいイメージをもとに見つめ直し、より元気な自分になりたいと意欲をもって課題を設定できるようにする。
  - 地域の人や友達、教師とのかかわりを繰り返し位置付け、双方向の対話の中で、自分の元気を高める方法を追究できるようにする。
- 【対話が成立する人とかかわりの工夫】**
  - 〈GTとのかかわり〉
    - 元気の達人として憧れの対象となるようなGTをできるだけ多く探し、児童一人一人とかかわりが深くなるようにする。
    - 活動を評価してもらうことで、有用感・有能感をあじわうことができるようにする。
  - 〈児童同士のかかわり〉
    - 一人一人の発言を保証するため、少人数グループでの話し合いの場を設ける。
    - 考えを書いたカードを使い話し合うことで、自分や友達の活動の価値に気付きやすくする。
  - 〈教師とのかかわり〉
    - 自己評価カードへのコメントや相談タイムでの助言により教師との対話をもち、追究意欲を持続できるようにする。

5. こんな子どもに

- A地域で、元気を広める活動をしている人との出会いに関心をもち、くり返しかかわりながら、自分の課題を見つけ、その解決に向けて最後まで追究することができる。 **【主体的・創造的な態度】**
- 地域の人から学んだものの中から、必要なものを選び自分のプランに組み込んだり、伝えたいことがより伝わるような表現方法を選んだり、互いの考えについて理解を深めるような活発な対話のある交流を行ったりすることができる。 **【問題解決にあたっての学び方】**
- 人と人をつなぐという地域の人の願いに共感し、元気を広める活動を行うことで地域の役に立てたという有用感をもつことができたことを、これからの自己の健康な生活の中で生かすことができる。 **【自己の生き方への自覚】**

6. 学習活動計画（計39時間）

| 段階     | 問題解決の学習過程  | 地域との双方向の関係づくりを成立させる支援  | 配時   |
|--------|--|--|--|
| 受ける    | <p><b>1. オリエンテーションを行う。</b> ⑦</p> <p>(1) 「元気」という言葉からイメージすることを話し合い、イメージマップを作る。</p> <p>(2) 「元気度チェック」に挑戦し、なりたい元気な自分のイメージをもつ。<br/>○体力 ○発声 ○笑顔 ○食事 ○睡眠</p> <p>(3) 学習の共通課題について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題1<br/>自分の「元気アッププラン」を作って元気いっぱいになろう。</p> </div> <p><b>2. 自分の課題を作り、活動の計画を立てる。</b> ②</p> <p>(1) 自分の課題を決める。</p> <p>(2) 活動の計画を立てる。<br/>○「元気アッププラン」・自分が学ぶ地域の人</p> <p><b>3. 自分の課題の解決に取り組む。</b> ⑩</p> <p>(1) 計画に基づき活動する。<br/>○地域の人と一緒に活動する。<br/>○元気アッププランを実行する。</p> <p>(2) 中間交流会をする。<br/>○同質グループで、情報交換をする。<br/>(そうだんタイム)</p> <p>(3) 「元気アッププラン」の付加修正を行い、さらに追究する。</p> <p><b>4. 活動報告会をする。</b> ⑥</p> <p>(1) 活動報告会の準備をする。<br/>(そうだんタイム)</p> | <p>※ イメージマップを書くことで、元気のイメージを言語化し、自分自身を振り返ることができるようにする。</p> <p>※ 教師の話から、昔と今の子どもの体力の違いを知ったり、今の自分の元気をチェックする活動を行ったりすることで、さらに元気な自分になれるようこれからの活動に意欲をもたせるようにする。</p> <p>※ 自分の課題が明確になるように、今より元気な自分を言葉や絵で表現できるようにする。</p> <p>※ 「元気アッププラン」を立てることで、どんな活動をし、誰に学ぶのかを明確にできるようにする。</p> <p>※ 学ぶ人については、自分の課題に合った人を自分で探す形をとれるよう、人材コーディネーターの公民館長さんに事前に協力を依頼する。</p> <p>※ GTと繰り返しかかわることで、元気につながる活動そのものの価値や、仲間と共に活動する楽しさを実感できるようにする。</p> <p>※ 交流することで、自分や友達のよさや課題を整理し、再追究に意欲をもたせるようにする。</p> <p>※ そうだんタイムを設けることで、次のGTとの活動のめあてを確かにもつことができるようにする。</p> <p>※ 自分のプランのよさ（元気になる活動のよさ、GTから学んだよさ）が伝わるように報告の仕方について助言する。再びイメージマップを書くことで、自己の学びを実感できるようにする。</p> | <p>1</p> <p>5</p> <p>1</p> <p>1</p> <p>1</p> <p>1</p> <p>5</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>本時<br/>(6/10)</p> |
| つなぎの交流 | <p>(2) 活動報告会をする。〔2回〕<br/>○元気になる活動のよさを伝え合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題2<br/>元気アップしたひみつを広めよう。</p> </div>   | <p>※ 自分の活動のよさやGTから学んだよさへの気付きを共有し、地域の人の願いである多くの人とつながる喜びに新しい価値を見出すことで、これまでの活動に有能感をもち、よさを広めるこれからの活動への意欲につなぐことができるようにする。</p>   | <p>2</p>   |
| 返す     | <p><b>5. 課題2の解決のための計画を立て、追究する。</b> ⑪</p> <p>(1) 新たな課題を決め、活動計画を立てる。</p> <p>(2) 自分の課題を追究する。</p> <p>(3) 中間交流会を行う。<br/>○異質グループで交流し、情報交換をする。</p> <p>(4) 付加修正して、さらに追究する。</p> <p><b>6. 『元気アッププラン発表会』を行う。</b> ②</p> <p>○他学年や保護者に、これまでの活動や活動に込められた願いを伝える。</p> <p><b>7. 学習を振り返り、これからの生活について話し合う。</b> ①</p>   | <p>※ A地域に元気を広めようという願いをもつことで、新たな課題を設定し、計画を立てることができるようにする。</p> <p>※ 友達の「返す」活動のよさに気付くことで、自分の計画の不十分さに気付くことができるようにする。</p> <p>※ 他学年や保護者、お世話になった地域の人に、活動を評価してもらうことで、有用感・有能感を味わうことができるようにする。</p> <p>※ 学習の導入段階でイメージした元気な自分に近づけたか振り返ることで、自分の成長に気付くとともに、これからも継続して生活に生かしていこうとする意欲をもたせるようにする。</p>   | <p>2</p> <p>4</p> <p>1</p> <p>4</p> <p>2</p> <p>1</p>  |

## 7. 本時（16／39）

平成21年10月29日（木）

5校時

3年 教室に於いて

## 8. 本時の目標

- 自分や友達の活動を振り返り、よさ(伸びたこと)と課題(これから伸ばしたいこと)を話し合い整理することで、これからの活動のめあてと見通しをもつことができる。

【問題解決にあたっての学び方】

## 9. 本時指導の考え方

これまで子どもたちは、自分に足りない元気やさらにつけたい元気を課題として、元気になる方法を教えてくれる達人を選び、活動に取り組んでいる。その中で自分の「元気アッププラン」を立て、実践するとともに、元気の達人から学んだことをプランに加えるなどしてきている。本時は、その取組をふり振り返り、自分や友達の学びのよさやこれからの課題を明らかにしていく中間交流の場面である。

この中間交流では、今までの自分の学びのよさを「伸びたこと」、そして課題を「これから伸ばしたいこと」とし、同質グループの友達と交流を行わせる。「伸びたこと」を確認しあうことで自分の行っている活動に自信をもつこと、さらにグループとしての活動のよさにも気付かせることをねらっている。また、「これから伸ばしたいこと」を共有することで、今後の活動に意欲をもたせることをねらっている。このグループとしての活動のよさを価値付けることは、これから先「返す段階」において、元気を広める活動が人と人をつなぐという価値をもっていることに気付かせていく上でも大切になってくるものである。

そこで、本時は、子ども一人一人の取組の成果が目に見えてわかり、友達との対話を通して互いのよさが認め合えるように、4～5人のグループの中でカードを使ってよさや課題を分類整理していくようにさせる。また、「付け加えたいこと」と「気付いたこと」を書くカードを持たせ心づもりをさせておくことで、用意していた考えだけでなく、その場で生まれた考えも出しやすいようにし、より交流が活性化するようにさせる。

そこで、本時指導における目標達成のための主な支援は、以下の3点である。

- ① 自分の「元気アッププラン」、前時までの学習を整理した掲示物、学習プリントを整理したファイルを見て振り返ることで、これまでの活動を思い起こすことができるようにする。
- ② 同質の少人数のグループで考えを伝え合うことで、一人一人の子どもの発言を保証する。
- ③ カードを使ってよさや課題を分類・整理することやGTからのアドバイスカードをもらうことで、自分やグループの活動に自信をもち、さらに伸ばしたいことを共有し合うことで、これからの活動に意欲をもてるようにする。

## 10. 準備

(教師) 分析シート、GTからのアドバイスカード、前時までの学習を整理した掲示物

(子ども) カード、元気アッププラン、学習ファイル(学習プリント・・・自己評価及び相談)

# 1 1. 展開

| 学習活動と内容   | 評価規準  | 支援   |
|---|---|--|
| <p>1. 前時までの学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>本時のめあて<br/>これまでの活動をふり返り、のびたこととこれから<br/>のびたいことについて話し合おう。</p> </div> <p>2. これまでの自分の活動を報告する。</p> <p>(1) 聞く視点を確認する。<br/>《聞く視点》 ① のびたこと<br/>② のびたいこと</p> <p>※ つけくわえたいこと・気づいたことカードの使い方も<br/>確かめる。</p> <p>(2) 活動を報告し合い、分析シートによさや課題をまとめ<br/>る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>この図は、学習活動の振り返りシートを示しています。左側の「自分」欄には「付け加え」と「のびたこと」があり、右側の「グループ」欄には「気づき」と「のびたいこと」があります。矢印は、自分の気づきや追加事項がグループの気づきや目標へとつながることを示しています。</p> </div> <p>(3) これからの活動のめあてと見通しについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体がやわらかくなって動きがよくなってきた。もっと友達と合わせてできるようになりたい。中休みにも練習をしよう。</li> <li>○ 元気アッププランに〇〇さんのように「毎日寝る前の体操」を入れていこう。</li> <li>○ 「心を一つに」をグループのめあてにしよう。</li> <li>※ GTから届いたアドバイスカードに書かれていたことも参考にしながら話し合う。</li> </ul> <p>3. 本時を振り返り、自己評価カードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分ののびや友達ののびを確かめられたか。</li> <li>○ これからの活動にめあてと見通しをもつことができたか。</li> </ul> <p>4. 教師の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの学習への価値付け・賞賛</li> <li>○ 次時の学習の確認</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今日の学習では、自分や友達の伸び、グループ全体の伸びに気付くことができましたね。(賞賛) これからさらに伸ばしたいことをはっきりさせたことで、次の活動のめあてと見通しがもてましたね。(価値付け)<br/>次の時間は、今日の学習で立てためあてを実現させるために、活動していきましょう。(次時の学習の確認)</p> </div> | <p>【観点】<br/>問題解決にあたっての学び方</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達と対話しながら、自分たちの活動のよさと課題を共有し、次の活動へのめあてと見通しを持つことができる。</li> </ul> <p>【評価方法】<br/>表情・発言・自己評価カード</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までに、自分の「元気アッププラン」をもとに、個人と全体について、伸びたことと伸ばしたいことを、それぞれカードに書き、自分の考えを整理して、自分の考えが話しやすいようにしておく。</li> <li>○ 付け加えたいこと・気付いたことを書くカードを持たせることで、その場で生まれた考えも出しやすいようにしておく。</li> <li>○ 友達と同じ考えをまとめていくことで、自分の活動に自信をもったり、自分の考えに確信を持ったりして、価値ある活動を行っているという有能感をもたせることができるようにする。</li> <li>○ GTからのアドバイスカードを見ることで、自分の活動に自信をもたせ、これからの活動のめあてと見通しをもつための一助とさせる。</li> </ul> |